

第9回 PRINTNEXT2010実行委員会 議事録

2009.6.30

■日時

平成21年6月27日(土) 11:00~13:00

■場所

グランヴィア大阪 桐の間〔大阪市北区梅田3-1-1〕

■委員出席者（敬称略・以下同）

緑友会：作道 孝行、戸根木 孝、大川 哲郎、薬王寺 文宏

Space-21：安藤 隆弘、添田 寛、中村 盟、山下 英作

J C 部会：久保井 伸輔、高橋 健太(オブザーバー)

全紙器：黒田 浩

全青協：臼田 真人、伊藤 寿彦、三島 秀夫、江森 克治

東青協：瀬田 章弘、滝澤 光正、谷口 和彦(書記)

■議事内容

1. 各ゾーンチームから企画案の報告・審議

1) 日本創りゾーン（報告：江森委員）

【報告事項】

基調講演の安藤忠雄氏とのファーストコンタクト完了。先方のスケジュール確定が約3ヶ月前なので正式な承諾は貰っていないが、感触は良い。7月15日に横浜で安藤氏と中田市長のトークショーがあり、臼田実行委員長と行って直談判の予定。秋から本格的な打ち合わせに入る。

福武總一郎氏に関しては全青協四国ブロック副議長(香川)が折衝中。

【審議事項】

特になし。

2) 地域創りゾーン（報告：添田委員）

【報告事項】

6月5日(金)に(株)TONEGIで開催した小委員会の概要を以下の文書(抄)で報告した。

<基本コンセプト>

「愛され、必要とされる業界となり地域活性の核(リーダー)となれ」

C S Rを念頭に据え、業界自体のポジションアップから未来の可能性を見出せるゾーン創りをする。

<展示コンセプト>

直接熱(思い)を感じてもらえるようブース展示を少なくし、ミニセミナーによる展示を

増やしたい。

分科会…… 1、ミニセミナー会…… 3、ブース(展示+商談スペース) …… 6

<コンテンツ>(候補)

1) 分科会

①行政(地方自治体)との連携

事例:「湯島本郷百景の戦略」〔利根川印刷(株)〕

2) ミニセミナー

①NPOとの連携

事例:「横浜方地域貢献企業認定制度の設立におけるCSRと感性の関わり」〔影山摩子弥氏(横浜市立大学教授)〕

②ブランディングによる地域活性

事例:「ものづくりへのこだわり」〔勝沼ワイン 有賀氏〕

③GOODにみる寄付の可能性

事例:「寄付金による環境問題を扱った小冊子の作成」〔横浜市立大学学生(だんなプロジェクト)〕

3) ブース

①携帯端末をつかった地域活性

事例:「携帯版ポータルサイトの構築と他地域連携」〔デュオデザイン 榊原氏〕

②メディアミックスによる地域密着型営業戦略

事例:「タウン情報誌とコミュニティー放送によるメディアコンテンツ化の実践」〔ふじたプリント社〕

③商いのできる事業団体への変革

事例:「支部における事業団体構想への挑戦」〔東京グラフィックサービス工業会 中央支部〕

④「感性価値創造事業」〔神奈川正和会〕

⑤ブランディングとポータルサイトの連携

事例:「秋田お米ブランディングとザ・座」〔秋田県印刷工業組合 大門氏、(株)TONEGI 戸根木氏〕

⑥「感性価値事業」〔東京青年印刷人協議会 6グループ〕

<その他>

参加者メリットとしてザ・座への出展(無料?)を検討する。

パーティーの際、各地方の酒、肴を試食、試飲販売できるようにする。

<今後の検討事項>

コンテンツの候補者決定のリミット(いつまで? 何組まで?)

他のグループとのコンテンツのかぶり、ダブりの確認とスペース取り

(了)

【審議事項】

久保井委員より「勝沼ワインの事例は『愛され、必要とされる業界となり地域活性の核(リーダー)となれ』という基本コンセプトから外れるのではないか？」との質問がなされた。添田委員は「他業種の勉強」と回答したが、「各団体への説明が必要」(大川)「ロジックが必要」(久保井)などの指摘が出た。

臼田実行委員長は「PRINT NEXTの一貫したテーマは『価値づくり』にある。印刷機械装置だけでお役に立てなくなった今、地域資源を発掘して国や地域(自治体・教育機関・公共機関・商店街等)に提供したい。」と発言した。

3) 企業創りゾーン (報告: 久保井委員)

【報告事項】

企業創りゾーンは展開がある程度見えているので、今回は小委員会を開かなかった。分科会1本+展示ブースの予定。大規模なだけの会社は出展させず、ユニークなコンテンツや新商材を扱うOnly One企業を推す。他ゾーンのコンテンツが出てから考えるので、急に動く必要はない。

【審議事項】

下記のような発言があった。

- ・エリア調整を久保井委員に。(臼田)
- ・中村委員は具体的なブーススペースの確認を。(瀬田)→会場見取り図回覧
- ・手続き論として、公募をするしかない。(江森)
- ・自薦中心で行く。(中村)
- ・何らかの公募を。(山下)
- ・1社の利益ではない。社会貢献だ。(瀬田)
- ・各団体の長に推薦してもらおう。(大川、作道、中村)
- ・各団体への落とし込みだけでなく、もっと戦略的に広報を使えないか。7月中にレギュレーションを決定し、8~9月に公募して、各団体より吸い上げたい。(臼田)
- ・その方が思考停止に陥らない。(大川)
- ・ガイドライン作りは私が担当する。(久保井)
- ・久保井委員のガイドライン作成は7月中に。8月からインナー向けに広報する。中村委員は物理的なスペース・会場レイアウトの確認と出展要綱の作成を。(瀬田)
- ・出展料は6万円としたい。(久保井)
- ・懇親会で物品や物産を置くことが可能か?(瀬田、伊藤)
- ・公募しつつ、各団体の長に働きかけ一本釣りしたい。(瀬田)
- ・公募は8月中旬から9月末まで。最終決定のデッドラインは10月。9月~10月で調整する。(臼田)
- ・10月末に決定し、プレスに流す。11月から実働に入る。(久保井)

上記の発言を踏まえ、各ゾーンコンテンツ企画・実働のスケジュールを取り纏めた。
(後述)

4) 人創りゾーン (報告：大川委員)

【報告事項】

6月24日(水)に神奈川労働プラザ7階会議室で開催した小委員会の概要を以下の文書(抄)で報告した。

□出席者 (敬称略)

[全紙器] 大瀧敏裕

[神奈川正和会] 上曾朋弘、上原健一、江原直樹、大川哲郎、近藤健一、野口正二、原田勇、茂手木雅也、森泉拓二、山下貢司

[書記] 小野亜衣 (大川印刷(株))

□分科会

実行委員会で人気の高かった「学生参加・学生視点」をテーマとし、学生と社長がトークバトルをするという意見を軸に話を進めた。

●参加学生の集め方

学生に参加メリット(例：社長と直接話ができる、就職活動につながる、等)が無ければ学生は集まらないのではないか。(小野)

起業家支援、インターンシップの仲介をしている「NPO法人ETIC」にメリット作り、学生集めの点で相談する。(大川)

デザイン、印刷系の学校に掛け合う。(森泉)

●分科会のスタイル (案)

1、討論会：社長5人×学生7～10人

2、パネルディスカッション：社長2人×学生5人

3、朝まで生テレビ形式：机をコの字に並べる

4、フィーリングカップル：社長5人×学生5人

○その他意見

- ・オーディエンスが周りを囲むほうが面白い。
- ・ESの視点を踏まえ、最後にお客様にどの社長が良かったか投票してもらう。
- ・パネルディスカッションの場合、コーディネーターは登場する社長や学生と事前に打ち合わせを念入りにするとよい。(大瀧)
- ・優秀な学生ばかり集まって難しい話ばかりするのでは面白くないので工夫が必要。(江原)
- ・テーマを3つほど用意し、導入から結論への流れをつくる。(大瀧)

□展示会

実行委員会で人気のあった社員満足度(ES)を中心に話を進めた。

- ・ E S のやり方を情報提供する目的で、日本 E S 開発協会や(株)タカヨシ(E S に取り組んでいる印刷会社)を紹介したい。(大川)
- ・ セミナーが無理なら、ビデオを流せないか。(上曾)
- ・ 1 人の人が 1 日巡回して有効な情報を得るのに必要な「資料」を充実させたい。(大瀧)

□ワークショップ

大瀧氏を筆頭に全紙器に協力して戴きたい。内容は貼り箱、立体名刺、ジグソーパズルの三点が挙がっている。

□その他

会議等の企画段階から学生ボランティア（例：文化服装学院ファッションメディア専攻科）に参加してもらうことを検討したい。(大瀧)

(了)

【審議事項】

人創りゾーンでアワード(褒章)が出来なくなったことが大川委員より報告された。「雰囲気づくりには良い」(薬王寺)「やるなら前もって決めてもらう」(伊藤)といった意見を踏まえ、アワードの対象を人創りゾーンから企業創りゾーンに移し、アワード(褒章)委員会を設置することが決まった。(後述)

分科会の時間枠について最初の擦り合わせが行われた。現時点で地域創りゾーン 1 ～ 2、企業創りゾーン 1、人創りゾーン 2。今後も機会を設けて調整する。

社員と学生を呼び込む段取りが検討された。瀬田在京リーダーからは社員と学生の登録料を無料にすることが提案された。大川委員は、テーマが決まってきた段階で学生を企画段階から入れたいこと、社員が来て会場を盛り上げてほしいこと、「社長vs学生」「社長vs社員vs学生」といった形を決める前に目的をはっきりさせる必要があることを補足した。

コンテンツに関しては、瀬田在京リーダーから(株)タカヨシへの疑問が示された。中村委員は、同じ学生でも美術学校やデザイン学校の学生を重視すべきといった主旨の発言をした。臼田実行委員長は、学生へのメリットづくり(名刺交換、会社見学、就職活動、インターンシップ等)に留意すること、クリエイティブ系の学生を対象に感性価値の企画を入れること、コンテンツを洗い直すことを指示した。

2. その他審議事項

1) 広報担当の選出

広報担当は、現在の戸根木委員、山下委員、久保井委員、三島委員に大瀧委員を加える。リーダーは久保井委員、戸根木委員とする。広報担当にはアウター向け(プレス対応)とインナー向け(各青年会員対応)にPrint Nextに関する広報を担当してもらう。

2) クリエイティブ担当の選出

新たにクリエイティブ担当を選出する。クリエイティブ担当は、Print Nextに関す

るクリエイティブワークのディレクターとなる。シンボルマーク制作、Webサイト構築、ポスター・パンフレット・ハンドブック(当日配布)・参加者ノベルティ(当日配布)等の制作、映像編集制作などを担当してもらう。人選は臼田実行委員長と瀬田在京リーダーに一任する。

3) 各ゾーンコンテンツ企画・実働のスケジュール作成

次回実行委員会(7月開催)にガイドライン案(久保井委員作成)と出展要綱案(中村委員作成)を審議する。7月中に選定基準を決定し、VI(ヴィジュアル・アイデンティティ)を制作する。出展募集は8月中旬に開始する。締切を9月末日とし、10月中にはすべてのコンテンツを最終決定する。

11月からは実働に入る。

4) アワード(褒章)委員会の設置

「〇〇大賞」といったアワードを担当する褒賞委員会を設置し、委員長には伊藤委員が就任する。メンバーの選出は伊藤委員に一任する。委員会では選考基準の作成などを担当する。Print Next初日の懇親会でアワードを発表するのが目標。

5) 在京実働チームの会議の開催場所

瀬田在京リーダーより、次回以降の開催場所を東京中心(日本印刷会館がメイン、時々横浜で開催)とすることが提案され、了承された。

6) チーム増強

瀬田在京リーダーより、今後の運営を考え各ゾーンチームにメンバーを増強することが提案され、了承された。併せて、運営委員が全国、実行委員が在京と役割分担することが申し合わされた。

3. 会計報告

三島委員から実行委員に対して会費2万円事前振込の督促があった。6月27日現在で15名振込。

江森委員からは予算調達、戸根木委員からは受付経費等によるコスト上昇(推定650万円→700万円に拡大)を心配する声が挙がり、瀬田在京リーダーが次回実行委員会までに予算書を作成することを約束した。

以上で議事を終了した。

■次回：7月22日(水) 16:00～19:00(懇親会 19:00～)

千代田印刷会館〔東京都千代田区神田錦町3-2〕(日本印刷会館より変更)